

# 中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所  
地域教育支援スタッフ

no  
**5**

チュウホク ドット コム

TEL 0551-23-3008

FAX 0551-23-3013

中北の地域社会 (COMmunity)の心の交流 (COMmunication)をめざします



## 迎春

### 地域教育の振興をめざして

中北教育事務所  
副所長 飯野 直人

新年明けましておめでとうございます。関係各位におかれましては、今年のご目標等を模索する中で素晴らしい年明けを迎えられていることと存じます。また、日頃、中北教育事務所の地域教育関連事業へのご理解とご協力に厚く感謝致します。更に、本年も引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

昨年4月に赴任してから10ヶ月間、地域教育に携わる教育事務所の担当者や関係各位の仕事や状況を見てきましたが、今から20年ほど前、私が教育事務所の社会教育主事に携わっていたころとの違いに驚いています。当時、私も社会教育主事として3年ほど、社会教育に携わりました。そのころ八つあったどの教育事務所も、対象市町村数や回数は違いますが、現在と同様市町村とは担当者会を定期的に開催し情報交換や事業協力及び指導助言等を行っていました。社会教育関係団体の事務局もたくさん持っていました。社会教育推進の担当は勸学院担当が非常勤になる最近まで当時と同じ体制で維持されていました。しかし、地域教育推進はまだありませんでした。ただ、社教主事は振興事務所から併任辞令を受け、振興事務所管下の団体等の事務局も受けていたことを覚えています。その後、生涯学習事業が盛んになると、県の教育行政と一般行政の両方で実施される生涯学習事業の調整や橋渡しをする職員として、社会教育主事とは別に教員が1人振興事務所に配属されました。平成10年度からは、事務所内に地域教育推進が誕生し、そこに管理職相当の教員が1人配され、振興の職員と2人体制になりました。13年度からは義務教育から主幹、高校教育から副主幹が配置され、地域教育は3人体制となりました。市町村合併が始まるまでは、教育事務所の地域教育推進の人員は増加の一途でした。しかし、合併が進む中、地域に根ざして活動していた生涯学習の拠点である公民館も統合され、管内の中央公民館が地区館化し、携わる市町村職員も激減していきました。市町村数が減ったため、郡市毎の公民館連絡協議会や社会教育委員連絡協議会が組織できなくなり、県一本となりました。当然、県と市町村の橋渡しをしていた教育事務所の社会教育や地域教育推進の役割も減っていきました。そのような状況下で、平成18年度には教育事務所も合併され、業務を住み分けていた地域教育と社会教育も統合されました。地域教育支援スタッフとして再編し現在に至っています。

急激に縮小された地域教育や社会教育の体制だからこそ、現状と課題を県民サイドに立ってしっかり分析し、生涯学習の場や情報提供のために、地域ぐるみで子どもたちの成長を支えるために、高齢社会の中での共生の意識を深めるために、新たな公共意識を高めるために、地域教育支援スタッフを中心に教育事務所として何が出来るかを熟慮しなければならないと感じる年の始めです。

#### 「第2回峡北地区地域教育推進連絡協議会」のお知らせ

期日：平成23年2月17日(木)午後2時から 会場：北巨摩合同庁舎3階301会議室

内容：協議・情報交換及び研修会(研修会には一般の方もご参加いただけます。)

研修会：テーマ『地域とともに子どもを育てる』

実践発表 発表者① 浅川 倫世 氏(大泉地区学校応援団地域コーディネーター)

「地域ぐるみで子どもを育てる学校応援団」

発表者② 佐藤 京子 氏(韮崎市保育所連合会会長)

「エコ活動を通して地域と交流」(仮題)

## 「通学合宿」って御存知ですか？

通学合宿とは、子どもたちを特定の期間、公的施設等で集団宿泊させながら学校へと通学させることにより、異年齢の集団活動や生活体験活動を行うものです。

この通学合宿は、昭和 58 年福岡県庄内町で実施された 5 泊 6 日の「通学キャンプ」がモデルとなり、全国的に広がりをもって展開されるようになったそうです。

この活動を通して、参加した子どもたちの社会性、自主性、協調性などを伸ばし、「生きる力」を育むことが期待され、さらに、この活動に地域の大人が参加することで、地域全体で子どもたちを育む環境を整備していくことも目指しているのです。

国立教育研究所社会教育実践研究センターの実態調査によると、

- ◆宿泊施設は、公民館や青少年教育施設などの公的施設を利用することがほとんどです。
- ◆1年の内で2学期（9月から11月）に実施する場合があります。
- ◆実施日数は、3日間～6日間が多いです。
- ◆小・中学生対象がほとんどで、中でも小学校高学年が圧倒的に多いです。

- ◆合宿中の食事は、スタッフに手助けしてもらいながらの自炊が中心となります。
- ◆スタッフには、育成会やPTA 関係者、自治会や公民館関係者、学校や教育委員会関係者に加え、大学生や地域の方々のボランティアがあたります。次に、荊崎市の実施例の一部を紹介します。

**穴山町通学合宿（荊崎市）**

実施時期	平成 22 年 7 月 3 日～6 日 3 泊 4 日
実施場所	穴山公民館 他
参加者	小学 4 年生～6 年生 15 名
実施主体	主催：荊崎市教育委員会 共催：穴山公民館 他

**基本プログラム**

（朝）起床、ラジオ体操、食事作り、食事、片づけ、掃除、身支度、登校

（夕）下校、入浴、食事作り、食事、片づけ、学習、交流、体験学習、就寝

## 山梨県各警察署の生活安全課の活動 … 弁論大会

山梨県警察では、各警察署に生活安全課があります。住民が犯罪の被害に遭わないように指導したり、少年の非行防止の活動などを行っています。ですから、学校とも関係が深く、様々な活動を行っていますが、今回は、警察が中心になって開催している弁論大会についてご紹介します。

各警察署では、防犯協会支部、交通安全協会支部などの防犯団体や交通安全団体とともに主催して、「少年を非行から守る中学生防犯弁論大会」と「中学生交通安全弁論大会」を同時に開催しています。市町教育委員会や少年補導員連絡協議会なども参加しており、青少年の健全育成に関わる団体で運営しています。

各大会へは、各警察署管内の中学校が参加していますので、通常の市町による学校の区分けとは違いますし、聞くことで、防犯や交通安全の意識を高めてもらうのも大会の目的ですので、聴衆として、各地区の中学生に参加してもらっています。防犯の部、交通安全の部それぞれ、最優秀、優秀、優良を決め、最優秀者は、管内代表として、県大会へ参加します。

以下、箇条書きで申し訳ありませんが、平成 22 年度の各大会の様子を掲載します。

甲府警察署管内 会場：県民文化ホール小ホール  
月日：9 月 13 日 参加 10 中学校 聴衆：甲府市立西中 1 年生

- 南甲府警察署管内 甲府市立笛南中学校体育館  
8 月 31 日 参加 8 中学校 笛南中全校生徒
  - 南アルプス警察署管内 若草生涯学習センター  
9 月 8 日 参加 7 中学校 若草中 1 年生
  - 荊崎警察署管内 荊崎市立荊崎西中学校体育館  
9 月 2 日 参加 7 中学校 荊崎西中 2 年生
  - 北杜警察署管内 北杜市立白州中学校体育館  
8 月 27 日 参加 9 中学校 白州中全校生徒
- なお、各署の代表が集まった県大会の防犯弁論大会で、甲府署管内代表の山梨大学教育人間科学部附属中学校 2 年の木村萌江さんが最優秀に、北杜署管内代表の北杜市立高根中学校 3 年の石原瑞帆さんが優秀に入りました。

県交通安全弁論大会でも、荊崎署管内甲斐市立双葉中学校 3 年、奥水沙織さんが優勝し、北杜署管内北杜市立甲陵中学校 3 年田村萌夏さんと南甲府署管内笛南中学校 2 年田中有紀さんが準優勝しました。



県防犯弁論大会の木村さんの様子

### 普通科高校のキャリア教育

中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会は、平成22年5月の第二次審議経過報告で、高校でのキャリア教育の充実を喫緊の課題としました。特に普通科でのキャリア教育は優先的に検討とすべきとしています。特集記事の最終回として普通科高校のキャリア教育をご紹介します。

#### 職業についての体験活動

**白根高校のインターンシップ** 白根高校は、生徒全員対象のインターンシップ実施で7年の実績を持っています。その成果をアンケート結果によりご紹介します。



商品の陳列にも理論があります  
〈オギノ・リバーシティ  
ショッピングセンター〉

今年度は7月下旬に2年生全員が3日間のインターンシップを行いました。事後のアンケートによりますと、87パーセントの生徒が満足と回答しました。また、68パーセントの生徒が進路決定に役立つと回答しました。その理由は様々ですが、「進路をきめる一つのきっかけになったから」、「仕事の内容や厳しさがわかったから」などが多くなっています。67パーセントの生徒が自分の学習方針や態度に変化を与えたと答えました。変化の具体的内容としては「言葉遣いやマナー」、「生活態度」、「社会の厳しさ」などが多くあげられていました。

普通高校は、教育内容でも進路指導でも職業との直接的な関連が少ないのでインターンシップ実施には専門高校にはない困難もあります。しかし、アンケートは、生徒が職業や社会に真剣に向かい合う体験をしたことを示していました。

普通科高校のインターンシップ実施は増加傾向

にあります。中北地区では、巨摩高校が今年度から希望者を対象に始めました。

**甲府東高校の職場見学会** 12月に実施された甲府東高校の職場見学会を見せていただきました。1年生がそれぞれの進路希望によりマスコミ、サービス業、製造業などの8事業所に分かれての見学です。同行先の日本銀行甲府支店は特殊な業種なので、どのようなキャリア教育が見られるか興味を持たれました。

当日は、まず施設の見学や日銀の業務内容についての説明がありました。ついで説明は職種によるキャリアの積み上げ方の違いや出産休暇・育児休暇の問題を含めての勤務条件に進みました。これはたしかに第一線で働く人によるキャリア教育でした。難関大学を卒業したばかりの若手の行員さんに高校・大学の過ごし方について質問して、受験や就職のための知識も得て終了になりました。学校と事業所の綿密な事前準備により普通高校らしい工夫をこらした職場見学会でした。中北地区の普通科では、他に北杜高校と韮崎高校が職場見学を行っています。



一般職・特定職・総合職のキャリア形成をご本人から聞きました  
〈日本銀行甲府支店〉

#### 体系的なキャリア教育を目指す

**甲府昭和高校の計画** 山梨県教育委員会は、平成21年度から「児童生徒キャリア育成推進事業」を開始しました。これにより、甲府昭和高校は押原小学校、押原中学校とともに研究協力校となり小学校から高校までの一貫したキャリア教育の指導体制整備に取り組んでいます。

甲府昭和高校は、小学校・中学校との連携を含めたキャリア教育の指導計画をいち早く作成しました。主な学習活動は、教育課程のコース・科目選択のガ

イダンス、オープンキャンパス参加や学問分野調べ、職業研究、学部・学科研究などの従来からの進路指導に加えて、環境や福祉、地域社会との関わりなどを考える現代社会についての研究や、事例にもとづいて職業観や勤労観を考える学習などです。それらは、教育課程に位置づけられ、生徒自身による調査活動、社会人を招いての講話、校外の施設の見学や近隣社会との交流といった体験活動等々の様々な方法により行われます。それぞれの活動で培うべき能

力も明記しています。

担当主任の保坂貴彦先生は、計画作成の基本方針について次のように話されました。「キャリア教育のために特に新しいことをやらなければならないという考えはありませんでした。これまでも生徒にとって必要なことを積み重ねてきていました。それらを整理し、体系化して計画をつくりました」

計画作成とともに、10回分の独自教材の開発を進めています。この教材は、普通科高校としての同校の実情に合わせてあり、映像資料を中心に構成されています。同校は、中学校への出前授業、小中学校と一体となつての公共施設の美化運動なども行っています。その成果は、今年11月の研究発表会で報告される予定になっています。

## 大学や研究機関との連携

**SSH甲府南高校** 甲府南高校のサイエンスフォーラムの一つを拝聴しました。京都大学霊長類研究所長の松沢哲郎氏による講演は、人間にも通じるチンパンジーの子育て、文化伝授の話で大変興味深く、文科系の生徒も含めて学問への意欲をかき立てられる内容でした。同校は、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けて6年になります。有為な科学技術系人材の育成を目的として、高大連携授業、サイエンスフォーラム、大学・研究機関・企業などを訪問しての見学・講義・実習等の多くのプログラムを組んでいます。**大学の出前授業など** 他の普通科高校でも、この10年ほどの間に大学の出前授業・公開授業や科学技術振興のための事業を活用して大学や研究機関と

連携し、生徒が高度な学問に接する機会を設定しています。いわゆる知識基盤社会をひかえての高等教育の強化や中等教育と高等教育との接続の改善、大学の広報活動の拡大を背景にした行政や大学からの積極的な働きかけと高校の学習意欲の契機づくり、進路指導の改善の動きが結びついたものです。

これらの授業や講演などでは、研究者の方々が大学で学ぶ意味や大学の先にある就職・職業といった説明を付け加えられることが多く、キャリア形成の理解にも役立っています。

ほとんどの生徒が大学進学を目指す普通科高校では、こうしたこともキャリア教育の重要な要素になっています。

## 計画作成を進めるにあたって

**これまでの進路指導の実績** 県内の各公立高校でキャリア教育の計画作成が進められています。甲府第一高校の跡部和校長先生に、学校経営から見た今後のキャリア教育についてお話をうかがいました。

「これまで普通科高校では進路指導の概念はありましたが、キャリア教育という考え方はあまりありませんでした。しかし、進路指導は大きく変わってきていて目先の進学対策だけではなく、社会に広く目を向けて生き方を考えさせたり、長期的な視点で進路選択をさせたりするようになり、キャリア教育の内容をかなり含むものになってきています。これまでのそうした実績を再点検しながら各学校の事情にあったキャリア教育の計画を考えてい

くことになると思います」

**今後に求められる能力の育成** 「キャリア教育を考えるときに、生徒にどのような能力を身に付けさせるかが重要です。たとえば、『コミュニケーション能力』が非常に重要視されるようになりました。

『コミュニケーション能力』とは、「論理的表現」・「意思疎通」・「協調性」などの能力に加え、「信頼関係構築」・「折衝・交渉」・「説得」といった、人間性、論理的思考力、精神力、柔軟性なども包含した全般的な能力です。このような能力の育成を教育活動にどう織り込むかが計画作成の課題だと思います」

甲府昭和高校での計画作成とも相通じるお考えでした。

## おわりに

山梨大学キャリアセンターの渡辺研次先生をお訪ねして多くの有益なご教示をいただきました。現在の課題である高校のキャリア教育の計画作成について渡辺先生のお考えをお伝えし、まとめにかえます。

「高校には学科や地域性、生徒の進路状況等々の学校ごとの事情があるので、各学校がそれぞれの事情にもとづいて計画を作成していくことになるでし

よう。在学期間を通してのキャリア教育の指導体系を提示できるようになれば、生徒・保護者は大きな信頼感・安心感を持つと思います。その評価・改善も重要です。キャリア教育をはじめとする教育活動の評価基準は、まず生徒・保護者の満足感ではないでしょうか」

平成22年度『中北.com』No.5

編集・発行

中北教育事務所地域教育支援スタッフ

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3008

ファックス 0551-23-3013

『中北.com』は中北教育事務所のホームページでもご覧になれます。

アドレスは次のとおりです。 <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html>